

国際協力について考えよう

宇和島市立城北中学校 担当教科／英語

井上 省吾

●実践教科：総合学習 ●時間数：2時間 ●対象学年：中学3年生 ●対象人数：132名

授業実践のねらい

- 発展途上国の現状や、そこで活躍している日本人の活動を知り、自分たちから何かをしようという意識を育てる。
- モンゴルや他の開発途上国の文化に触れ、異文化に対する興味・関心を高める。
- 日本以外の国を知り、自分たちの住んでいる国の良さに気付く。

授業実践の構成

時間	テーマ・ねらい	主な学習活動	使用教材等
第1時	青年海外協力隊について 協力隊の活動を知る	・3ヒントクイズ ・民族衣装クイズ ・セネガルOG隊員による講演 ・共通点・相違点探し	パソコン プロジェクター パワーポイント 民族衣装
第2時	世界について考える 世界の現状について知る モンゴル文化を体験し、異文化に対する興味をもつ モンゴルと日本の関係を学ぶ	・ワークショップ 「世界がもし132人の村だったら」 ・写真を見ながらモンゴルについて知る ・モンゴル文化を体験する ・東日本大震災への支援からモンゴルと日本の関係を学ぶ	「世界がもし100人の村だったら」資料 スーテーツァイ

授業の詳細

第1時

【ねらい】

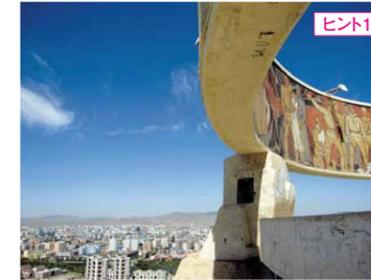
1. 国際協力活動を知り、自分たちには何ができるのかを考える。
2. 発展途上国を知り、日本と比較することで両国の良さに気付く。

まず、アイスブレイキングとして写真を見せながらの3ヒントクイズを行い、発展途上国の様子を紹介した。その後、講師である青年海外協力隊OGの紹介を行い、派遣国であったセネガルの様子や活動の状況を、パワーポイントを

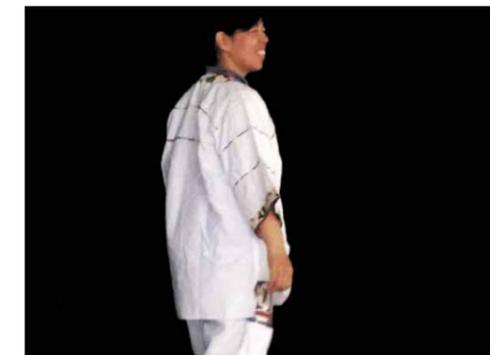
用いて説明していただいた。その中で、動画を見て日本とセネガルの共通点や相違点を考えた。

※講師はJICA四国に国際協力出前講座を依頼し、派遣していただいた。

○ 3ヒントクイズ資料例



○ 講師の活動紹介の様子



生徒の反応

<感想より>

- 生活環境は日本の方が、いいなと思ったけれど(セネガルの)すれ違った人に挨拶をする習慣や人を敬う気持ちは、日本よりも先進国だなと思いました。
- 発展途上国の子供たちは日本の子供たちよりも笑っていました。日本は生活こそ豊かですが、心が豊かなのは発展途上国の方だと思います。
- 先進国のような衛生的な生活ができるほど裕福ではありませんでした。でも宗教を大切にしたり、家族や友人を大切に、目が合えば知らない人でも挨拶をするなど日本よりも良いところはたくさんありました。
- 私は日本で生活していく方がいいと思いました。でもいろいろな国の人と交流していきたいと思いました。そして海外に行きたいと思いました。
- 将来、私も発展途上国などで何か役に立てるような仕事に就きたいと思い始めました。これからは、自分のことだけでなく、他国のことも真剣に取り組んでいきたいです。

【所感】

この時間では「国際協力活動を知る」をねらいとしたが、講師の専門分野がエイズ対策であったことから、実際に活動の様子を深く紹介することは難しく、セネガル紹介に重点を置くことにした。しかし、実際に活動されていた人ということで生徒も興味を持ちながら話を聞き、話の中からセネガルと日本を比較し、互いの良い点を考えることができていた。

こういったことから講演を行う場合は、講師に任せきりにするのではなく、何を伝えたいかなど綿密に打ち合わせを行う必要があると感じた。

第2時 モンゴルと日本の関係について

【ねらい】

1. モンゴル文化を体験し、異文化に興味を持つ。
2. モンゴルと日本の関係から、国際交流について学ぶ。

モンゴルの写真(資料1)を見ながら、モンゴルやモンゴル文化について学習した。途中、フォトランゲージの手法を用い、何をしているか、日本との共通点や相違点について質問を行った。またモンゴルで購入したスーテーツァイを用意し、何名かの生徒に試飲させ感想を尋ねた。

最後に東日本大震災のモンゴルからの支援を紹介し、国際協力が築いていった友好関係について紹介した。

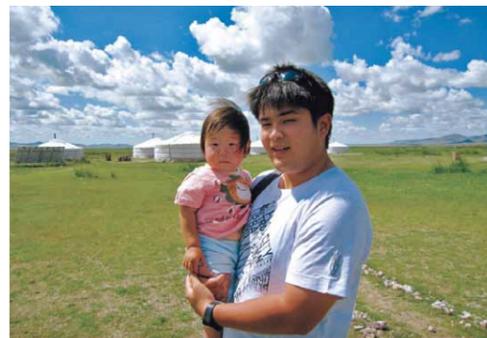
○ スーテーツァイとアーロール



○ 生徒が試飲をしている様子



○ フォトランゲージの写真①



○ フォトランゲージの写真②



生徒の反応

<感想より>

- 授業が終わったあと、お茶を飲みました。何と云えばいいかわからない味でした。(協力隊OGの方が持って来られた)ハイビスカスのお茶の方がおいしかったです。楽しい授業でした。
- 民族衣装は見たことがなかったので着てみたいと思いました。
- 「他国の文化に偏見を持たず、しっかり理解する」というのが心に残り、私もそうしていきたいと思いました。
- 困った時は、お互いに助け合うという心が大切だと感じました。誰かからの助けや支援があり、誰かからの支えがあるからこそ、私たちの国は成り立っているのだと思います。
- 他国と文化の違いを超えて友好関係を築くことが大事だと思います。日本とモンゴルは困った時に助け合える関係なんだと思いました。他国が困っている時は真っ先に助けられるようにしていきたいです。

【所感】

モンゴル文化紹介では、実際にモンゴルでよく飲まれているスーテーツァイを試飲させた。授業内だけではなく、授業終了後にも飲んでみたいという生徒が多く、生徒の異文化に対する興味が高いことを感じた。

フォトランゲージではゲル(モンゴルの移動式住居)の中や、生活について質問しながら進めていった。遊牧民の生活の中にソーラーパネルや携帯電話などの電化製品も多く浸透していることに驚きを覚える生徒も多かった。

東日本大震災におけるモンゴルの支援の紹介では、政府だけでなく民間でも多くの支援をされたことを初めて知った生徒も多く、感想からも分かるように「自分たちも相手が困った時は助けたい。」という生徒が多かった。真剣なまなざしで聞いてくれる生徒が印象に残っている。

授業実践を終えて(成果と課題)

この授業は3年生が総合的な学習の時間で行っている国際理解教育講座の時間をいただいて行った。3年生全クラスだけでなく、他の学年の生徒も聴講にくるなど一度に多くの生徒に対して、異文化を紹介できたのが大きな成果であった。

しかし、一方で、一度に多くの生徒に対して行ったため、生徒一人一人の意見を十分に聞くことができなかったのが課題であった。少人数であればもっと多くの生徒により異文化体験をさせることができたのではないかと感じ、効果的に参加型授業を行うためには人数を考える必要があったように感じた。

また、授業を行い、どうしても単発的な授業になってしまったのが課題であったと感じる。学級担任をしていない立場では、どうしても継続的に授業を行っていくのは難しいと感じた。実際に自分たちでできる活動を考え、実践させることができれば、よりよい授業になるように感じた。

最後に、ある生徒の感想を紹介したい。

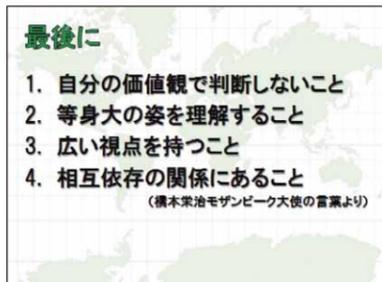
(前略) だんだん自分の夢が外国に行って貧しい人たちの力になりたいという感じになってきました。この夢はすぐにやめようと思わなかったし、ずっと強く思っているなのでこの夢を絶対にあきらめたくないです。

私が海外に興味を持ち始めたのも、彼らと同じ中学生の時期であった。自分の授業でこのように国際協力に目を向けてくれる生徒がいたことはうれしかった。この授業を準備していく上で、私自身の方が学ぶことが多く、悪戦苦闘したとともに、新しいことを学ぶことに心を躍らせながら授業を行うことができました。最後になりましたがこのような場を与えてくれたJICA 四国の皆様、支えていただいた同僚の先生方に感謝したいと思います。

使用教材

【資料1】スライド教材<抜粋>





参考資料

【書籍】

- ・地球の歩き方 モンゴル2011～2012 地球の歩き方編集室
- ・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 開発教育協会

【インターネット】

- ・世界が日本に差し伸べた支援の手～東日本大震災での各国・地域支援チームの活躍 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol73/index.html>
- ・最近のモンゴル情勢と日・モンゴル関係 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/mongolia/kankei.html>



JICA四国「開発教育支援事業」のご案内

JICA(ジャイカ)とは

JICA(ジャイカ)とは、独立行政法人国際協力機構の略称です。前身は昭和49年に国際協力事業財団法に基づき設立された特殊法人国際協力事業団で、平成15年に独立行政法人化され、平成20年には国際協力銀行(JBIC)のODA部門が統合し、総合的な援助機関として新たなスタートを切りました。

技術協力、有償資金協力(円借款)、無償資金協力という3つの援助手法を一元的に取り扱い、開発途上地域等の経済及び社会の発展に寄与し、国際協力の促進に資することを目的としています。

主な事業として技術協力(専門家の派遣、機材の供与、開発調査等)、有償資金協力(円借款)、青年海外協力隊等のボランティアの派遣、無償資金協力事業の実施促進、災害緊急援助、研修員の受入れ等を実施しています。「すべての人々が恩恵を受けるダイナミックな開発」というビジョンを掲げ、世界の「貧困」をなくすために、人を介した国際協力を行っています。

JICA開発教育支援事業とは

総合的な学習の時間において取り組むことが期待される、諸外国との関係や異文化理解、そして地球的課題の分野において、JICAが長年国際協力事業を通じて培った経験や人材、ネットワークを活用し、積極的に学校現場に協力したいと考えております。

具体的には、国際理解教育に取り組まれる先生に派遣する研修会や、海外研修の機会の提供、国際協力に携わった地域の人材を学校に講師として派遣する「JICA国際協力出前講座」など、以下のような事業を実施しております。詳細はJICA四国ホームページ(<http://www.jica.go.jp/shikoku/index.html>)を参照ください!